

農村伝道神学校学報

学校法人鶴川学院
農村伝道神学校
発行人 高柳 富夫

安全保障関連法廃止！ 辺野古新基地建設反対！

「暴力に抗して」

(創世記四・一―二六)

校長 高柳 富夫

繰り返してはならないので
す。日本国家によるあの侵略
と暴虐の歴史を！

日本基督教団はその侵略と
暴虐に加担したのです。それ
は、どんな言い訳も通じない、
言い逃れることのできない紛
れもない事実です。

この度、「北村慈郎牧師の処
分撤回を求め、ひらかれた合
同教会をつくる会」から『戒
規か対話か』―聖餐をめぐる
日本基督教団への問いかけ
―(新教コイノニアVOL.
31)が新教出版社より出版
されました。

本書出版の意図は何か、書
名がすべてを語っています。
洗礼を受けていない者に開か
れた「聖餐式」を行ったこと
を理由に、ほとんど問答無用
で、はじめに戒規ありきの不
当な免職処分という暴力が、
北村慈郎牧師に対して行われ

ました。その処分の撤回を求
め、正義と公平を実現すべく
対話と呼びかけるものです。

しかし、この問題の本質は、
「聖餐式」を洗礼を受けていな
い者に開くかどうかに終始す
るようなものではないことを
しっかりと心に刻む必要があ
ります。

そのことを、村山盛忠牧師
が次のように的確に指摘して
います。「北村牧師と当該教会
は、聖餐論を新たに問いかけ
たのではない。聖餐論を聖書・
教理・礼典から論じ合うこと
は大切だろう。しかし、北村
牧師は聖餐を通して「戦後」
の意味を問い続けているので
ある。いま教会が、教団が向
きかねばならない課題は、
「戦後」の意味を問い、今日の
伝道、宣教の方向性を共に話
し合うことではないか。」(本
書一四六頁)

「いま」という時を新しい「戦
前」としないために、「戦後」
の意味を問い続けなければな
らないのです。「戦争法」と言
われ、明らかな憲法違反が指
摘されている「安全保障関連
法」が強硬に成立させられ、
沖縄の辺野古に新基地建設が
強行されている今こそ。

農伝は神学することの核心
に「宣教の学としての農の神
学」を位置づけ、「農と食と
いのち」を神学することのテ
ーマとして取り組んでいます。
それは「戦争」という「暴力」
に抗する取り組みであり、「農
と食といのち」に対する「暴力」
そのものの対極に生きようと
する取り組みです。

「いのち」に対する暴力が聖
書の記事として最初に登場す
るのは、カインによるアベル
殺害です。この記事の本質は、
人間の普遍的な罪の問題を取
り扱うというよりは、もっと
具体的に、「いのち」を脅かし
破壊する都市国家や都市文明
という暴力装置の問題性を鋭
く見抜いて問うているのです。
カインとカインの末裔にま

わりついているイメージは報
復と流血と殺害という暴力以
外の何ものでもないありよう
です。

カインはアベル殺害の後、
「地上をさまよい、さすらい者」
となりますが、そうならば「わ
たしに出会う者はだれであれ、
わたしを殺すでしょう」と恐
れおののきます。これは、カ
イン個人の問題ではなく、現
代世界にも通じる軍備拡大や
抑止力追求の心理を生々しく
指し示す記事です。

この視点に立つ時、沖縄に
押し付けられている問題と安
保関連法の問題は一体の問題
であることがわかります。ど
ちらも抑止力ということがま
ことしやかに言われています。
沖縄の新基地建設も安保法制
定も、中国や北朝鮮への抑止
力を確保するためだと言って
います。そして国民の多くは
この抑止力論に足元をすくわ
れ、絡め取られています。そ
れが、これだけ乱暴な議会運
営を続けながら、なおも現政
権が一定の支持率を維持して
いる理由の一つなのではない
でしょうか。

抑止力とは、カインの言葉
に如実に現れているように、
自分が相手を信頼できず、敵
意と殺意を持っていてから、
相手も自分を信頼せず、敵意
と殺意を持っているに違いな

いと思い、自己防衛のための
抑止力として軍備拡大に走る
ことを抑止できない力のこと
なのです。

相手に対抗して自国民を守
るための集団的自衛権だ、新
基地建設だと言いますが、事
実は自分自身の不信と敵意と
殺意の影に怯えているという
ことです。それが安倍首相のい
う積極的平和主義の正体です。
カインとアベルの記事を書
いた著者は、アダムとエバの
記事をも書きました。そこで

この著者は、二人は「互いに
向き合う助け手」(月本訳)と
して造られたと言います。こ
れはアダムとエバという一組
の男女の関係についてだけ言
われているわけではありません。
そうではなく、人間というも
のはすべて「互いに向き合う
助け手」として造られたのだ
と仰うのです。

ここから示されるのは、社
会のありようや人間関係のあ
りようを考える時、人間はす
べて対等で相互的で連帯し合
うことが、人間の本質に関わ
る最も重要なことだというこ
とです。対等性と相互性と連
帯性こそが人間にとっての一
番大事な価値だということだ
でしょう。

政治も社会の形成も、そこに
立ってすすめることが基本に
なければならぬと思えます

が、安倍政権はこれを破壊していると言わねばなりません。沖繩の米軍新基地建設問題では、国が沖繩に強権を發動して力づくで進めています。国家権力の横暴がまかり通って、対等性が破壊され、両者の相互性も破壊されています。沖繩の歴史を顧みれば、沖繩の苦しみ、痛みに連帯することが最も大切なことです。連帯性とは共感共苦ということです。

沖繩の苦しみは今に始まったことではありません。いわゆる琉球処分から始まって、アジア太平洋戦争で辛酸をなめつくした歴史があります。沖繩の米軍基地は銃剣とブルドーザーで造られました。その歴史を踏まえないで、安全保障の環境が変わったから新基地をつくる。安全保障の問題は地方が判断するものではないと言って、沖繩に強権を發動しているのが安倍政権です。

こういう図式をつくってしまおうと、国の安全保障の問題だと言われれば、それに反対も異論を唱えることもできない、地方は国のいうことには黙って従えとなります。これは国と地方自治体との関係の根幹を揺るがす問題で、沖繩だけの問題ではありません。

私たちは「安全保障関連法案の廃案を求める声明」(学報

一五八号)を発信して、普遍的平和主義こそが必要だと言っています。相手を敵視するのではなく、対等な立場に立つて相互に話し合い、相手の抱えている問題に連帯していくということだと思います。そこそが平和を構築していく道だと思います。

イエスは「剣をとる者は皆、剣で滅びる」と言います。暴力に頼るものは暴力によって倒れることを示すこの上もなく単純明快な言葉です。力に対して力という路線を根本的に変えなければ普遍的平和を構築することはできません。暴力に抗して、「いのちに繋がって神学する生」を生き抜いていきたいと思います。

新任講師紹介



山野 貴彦

聖書時代史(新約)を担当させていただいている山野です。近現代の学術的な方法論を基礎とする「新約聖書時代史」という学びの領域は、聖書の発展と共にあり、また、新約聖書研究やいわゆる原始

教会史研究はもちろん、ユダヤ教史研究やヘレニズム・ローマ時代研究およびそれらにかかわる個別的な諸研究の様々な要素が絡み合って形成されてきたものです。たとえば独語圏では *Vorlesung über neutestamentliche Zeitgeschichte* (『新約聖書時代史』) という書物は Mathias Schneckenburger という人物によつて一八六二年に記され、最近邦訳が進められているエミール・シューラー (Emil Schürer) の『イエス・キリスト時代のユダヤ民族史』の原語である独語文献の先行版である『新約聖書時代史教本』 (*Lehrbuch der neutestamentlichen Zeitgeschichte*) も一八七四年に刊行されています(それを出発点の一つにして大著『イエス・キリスト時代のユダヤ民族史』が編まれた)。一九世紀後半から二〇世紀前半すなわち今から百年以上前に既に、歴史資料の収集および分析が精力的に行われ、今日においてもなお参考になる書物が著されてきたということになります。二〇世紀には新たな歴史資料の発見や考古学的研究の発展、研究方法のさらなる精密化などにより、いわゆるキリスト教共同体の初期の時代の歴史的脈がさらに深く広く吟味されるようになり

ました。「新約聖書時代史」という学びの領域は現在もなお進化し続けています。わたしは立教大学でキリスト教とりわけ新約聖書の学びを開始し、同大学の大学院、さらにドイツ連邦共和国のテュービンゲン大学 (Eberhard Karls Universität Tübingen) にいて学ぶ機会を与えられました。ドイツではユダヤ教や聖書考古学にも触れ合うことができ、留学の最中には日本の調査隊が行っているイスラエル国の発掘調査にも参加させていただき、実際に南レヴァントの空気や土、水を実感することができたことも幸いでありました。これまで常に良き師や仲間にも恵まれ、その中でキリスト教を学ぶことができ続けていることは何よりも幸いであります。そうした良質な時間を過ごす中で得られた知識や経験を、このたび農村伝道神学校の皆様の学びのお手伝いに用いる機会が与えられたことにたいへん喜びを感じています。



山吉 智久

私は、そもそもキリスト教とはつながりの全くない家の

生まれであります。古の物語に興味を抱いて、楔形文字文書を専門に勉強しようとする門戸を叩いたのですが、入学早々に先生から、「君、楔形文字文書研究では食っていけないから、ぜひ聖書を勉強なさい。聖書に関わっておけば、将来食いっぱぐれることはないから」との教示を得ました。田舎育ちで、まだ純真であった私は、その言葉に促されるままに、聖書を専門に勉強することにになり、現在に至っています。果たして、あのときの教示が正しかったのか否か、今はまだ判断を留保していません。

修士課程に上がる頃になると、今度は聖書学の本場であるドイツへの留学を強く勧められました。まだまだ純真であった私は、この言葉に唆され、留学を意識するようになります。数年の準備を経て、留学先として選んだのは、テュービンゲンという小さな大学町でした。

ドイツの南西部に位置するバーデン・ヴュルテンベルクの州都シュトゥットガルトからローカル線に揺られて約一時間、一四七七年に設立され、とりわけ神学研究の世界的な中心として知られるこの大学にて、八年余りにわたって、主に旧約聖書と、そしてかつ

ての夢であった楔形文字を含む古代オリエント世界のことを少しく学ぶ機会を与えられ、またヘブライ語の語彙根パーダーに関する博士論文をまとめました。

帰国後は、とある学生寮で日々、若人たちと聖書を紐解く傍ら、いくつかのミッション系の大学において、キリスト教入門の類の授業を受け持っています。本学では、二〇一五年度より、「旧約時代史」を担当させていただいており、自分の専門と関わることをご披露できる貴重な機会を与えられ、感謝と共に、少しでも履修者の皆さんの学びの一助になれるよう、力を尽くしてゆきたいと思えます。

西アジアの偏狭に生きた古代イスラエルの人々は、常に当時の強大国の蔭にありました。しかし弱小であるがゆえに培われた神への信仰こそが、旧約聖書の歴史と思想を貫いています。ナザレのイエスをキリストと確信した人々はまさに、この思想と信仰を土台としています。それ故、旧約聖書の理解がなければ、新約聖書やキリスト教の理解は成り立つはずがないと思うのですが、最近のキリスト教会では、旧約聖書が等閑にされる、旧約聖書が等閑にされる、しかしそんな状況でこそ、「弱

いとくにこそ強い」という言葉に「種」を全うしようと思いを新葉を噛みしめつつ、「絶滅危惧」にされる次第であります。

農村伝道シンポジウム報告

農村伝道神学校 三年 小手川到

本州最北端の地から一人の初老牧師をシンポジウムの講師に招いた。農伝の敷地に融け残る雪道をゆっくりと踏み歩くベレー帽を被ったその小柄な姿は、長年の風雪にさらされ岩場に屹立する古木のよう峻厳さがあつた。八戸北伝道所の岩田雅一牧師である。岩田牧師は農伝卒業後、四〇年以上にわたって政治的社会的な関心を持ち牧師の業に励んでこられた。足尾、広島、三里塚、水俣を旅し、そして六ヶ所村の問題に直面する。現地写真を撮り、ルポルターージュを書くというユニークな活動家の一面も持ち合わせる。六ヶ所村で進む「核燃料サイクル基地」に立地・建設段階から一貫して反対し行動をしてこられた。現地で闘う民衆に出会い、対国家の視点と、農への認識を持つに至ったという。今回、「農を考える」というテーマで、二・一の経験を踏まえて、この国並びに全世界が直面する危機に



ついて鋭く語っていただいた。農、土に根ざす営みは人間にとって本来的なものであり、人間は土を離れて生きることはできない。農は時代を超えて揺るぎない価値を持ち、食・命に直接関わるものであるのに歴史的社会的構造として弱者の位置にある、と岩田牧師は問題提起をされた。また、以下のように言葉を続けた。三・一は国の根幹を揺るがした。瓦礫と放射能という



見えない敵に見舞われ、政治不信も頂点に達している。この国は危機に直面するとき、政治体制を強化する力学が働く。原子力やロケット産業の推進は、国の安全保障に資するものとされ、平和的科学的利用目的ではなく、日米安全保障体制における有事法制と一体政策となつていく。地元住民や農民の土地や農地は、核燃施設、原発施設、軍事施設により失われた。下北半島は、六ヶ所村核燃料サイクル基地、原子力発電所、原子力船むつ母港、陸海空自衛隊基地、各種軍事試験場などが集まり、核（放射能）と軍事施設の問題同様、それは捨てることを最初から勘定に入れた政

策であり、この国は「棄民国家」であると厳しく断じた。午後の部で、六ヶ所村の核燃開発国家プロジェクトに反対し闘った「極限の抵抗者」小泉金吾氏についての紹介があつた。小泉氏は一九六八年から巨大国家プロジェクト「むつ小川原核燃開発事業」の土地売却を一人拒否する。その後数一〇年にわたって、核燃基地に居座られ放射能にさらされた極限の村に残留し、自分の土地を盾に国家と大資本を相手に営農を続けたという。そのようにしてまで農民であり続けようとした小泉氏の闘いをかけた闘いであつた。それは人類や生命の破局的な危機を前に、「人間とはいったい何か」という問いでもあつた。小泉氏は一九九四年に青森県知事に「核燃事業に関する抗議・意見書」を提出する。その意見書の中で、「人間であるならば、各々がもつと自覚しなければならぬ。・・・将来にわたる生命・環境を考えるならば、核燃事業計画を全面廃止するよう我々住民は要求する。・・・科学者・知識者であるならば、環境と生命を保護することを第一義として反省、自覚するように」と訴えている。小泉氏のような国家への抵

◆ 第一回入学試験。三名合格。
 ◆ 一二月四日(金)午後五時

抗運動は、下北半島の核燃開
 発当初から現在に至るまでず
 つと少数者による闘いであつ
 たと岩田牧師は振り返った。
 下北半島には巨額の国家予算
 と大資本による投資資金が注
 入され、経済的基盤を核燃事
 業と軍事施設に頼らざるを得
 ない大多数の地元住民にとつ
 て、もはや反対行動を取るこ
 とは困難な状況とされている
 ようだ。農地や海は見えない
 放射能の脅威にさらされている
 。そこには声にならない抑
 圧というカオスが確かに存在
 している。その極北のカオス
 の地で体を張り続ける岩田牧
 師の闘いは、経済至上主義、
 軍事大国主義、近代文明主義
 に対する痛烈な批判であると
 共に、生命の危機と亡国への
 警鐘を鳴らし続けている。そ
 して預言者の如く、私たちに「土
 と共に生きる人間の本来の姿」
 に立ち返るようと呼び覚ま
 すのである。岩田牧師が噛み
 しめるように語る一つ一つの
 深みのある言葉は、旧約思想
 における「少数者(残りの者)」
 の希望のようにも感じられた。
 以上

—— 2016年度入学案内 ——

◆ 受験資格

- (1) 日本基督教団に限らずプロテスタント教会に所属し、原則として受洗後1年以上(洗礼式を行わない教派については、それに準ずる)の教会生活をしている者。
- (2) 所属教会が推薦し(可能であれば)、高卒または同等以上の学力を有すると認められる者。

◆ 修業年限

- 神学基礎コース：2年間(2年間で修了することも可)。
- 基礎コース修了後、神学専門コースに進むことができる。
- 神学専門教職者養成コース：2年間
- 神学専門信徒宣教師養成コース：1年間または2年間

◆ 学費

- 入学金 60,000円(入学時のみ)
- 授業料 240,000円(年額)
- 設備費 30,000円(入学時のみ)

◆ 受験手続

- 次の書類を期日までに郵送または持参する。
- (1) 入学願書(本校指定の書式)
- (2) 履歴書(本校指定の書式)
- (3) 教会(牧師または役員会)の推薦書(可能であれば)
- (4) 最終学校卒業証明書(または卒業見込み証明書)
- (5) 受験料 10,000円(振り込み)

◆ 入学願書受付

- 第1回 2016年10月4日(火)～11月4日(金)
- 第2回 2017年1月5日(木)～2月3日(金)

◆ 入学試験日時

- 第1回 2016年11月22日(火)午前9時～午後3時
- 第2回 2017年2月21日(火)午前9時～午後3時

◆ 会場 本校教室

◆ 入学試験科目 (1) 小論文 (2) 旧約聖書・新約聖書 (3) 面接

◎ 入学願書一式、過去の試験問題集は、本校事務室まで請求ください(無料)。

農村伝道神学校

〒195-0063 東京都町田市野津田町2024
 Tel 042-735-5775 Fax 042-735-5711
 Eメール: noden@pony.ocn.ne.jp
 ホームページ: http://www.noden.server-shared.com
 振替番号
 農村伝道神学校 00160-6-18485
 農村伝道神学校後援会 00120-6-24418

アドヴェント礼拝を行った。
 テーマ…祈りと賛美
 メッセージ…植松功氏(黙想と祈りの集い準備世話人)
 テゼー共同体の礼拝方式により祈りと賛美中心の礼拝。
 ◆ 一二月八日(火)ー一日(金)
 今年度特別講義
 禅キリスト教入門・接心
 講師…佐藤研氏(立教大学名誉教授)四日間の接心を行った。

◆ 一月二七日(水) 農村伝道シンポジウム
 テーマ…「農」を考えるー三・二一を経験してー
 一、六ヶ所村考(核開発と農民二、小泉金吾論
 講師…岩田雅一氏(日本キリスト教団八戸北伝道所牧師)
 ◆ 二月二日(火)ー五日(金)
 解放講座A…部落解放

講師…小林明氏(部落解放センター主事)
 ◆ 二月二四日(水)今年度第二回入学試験。三名合格。
 二〇一六年度の新入生は六名となり、新カリキュラムの神学基礎コース二年間で学ぶことになる。なお今年度の卒業生は無し。
 ◆ 校長は日本バプテスト同盟潮来教会礼拝、教団小田原教会(創立一二九周年記念)礼拝、東京台湾教会礼拝に招かれ、礼拝メッセージを行った。また、神奈川教区湘北地区牧師会で講師を務めた。
 ◆ 前号の神学校日派遣教会リストに下館教会が抜けていました。お詫びして訂正します。
 ◆ 三月一二日(土)午後一時半より、後援会主催「農伝支援コンサート」が教団まぶね教会を会場に行われた。

理事会議員会報

鶴川シオン幼稚園は、保育行政の変遷や、社会環境の変化もあって、園児数が減少をしている。また学院や神学校が地域と連携を持ちつつ用地を有効に活用することが必要とされている。これらことから、鶴川学院将来計画委員会を立ちあげ、活発な討議がおこなわれている。
 神学校に「黙想の家」を設けることを検討していたが、研修棟の改修をおこない、二階をその目的に宛てることにした。当初、神学校の家屋一軒改修の予定であったが、費用の点からも安全の面からも、改修は無理であると判明した。改修は研修棟二階のみではなく、食堂および外装もおこなう。(書記 横野朝彦)

◆ 二〇一六年度入学式
 四月六日(水)午後一時三〇分
 農村伝道神学校礼拝堂
 説教…「暴力に抗して」
 校長 高柳富夫
 式後茶話会。ご参集ください。
 ◇ 四月七日(木)
 ・午前九時より新入生オリエンテーション
 ・午後一時ー二時三〇分「始業講演」(公開とします)
 テーマ…「人を造ろうー創世記一、二章再考ー」
 講師…飯郷友康氏(本校講師)
 ・午後三時より全学生オリエンテーション
 ◇ 四月八日(金)九時ー一六時
 禅キリスト教入門オリエンテーション
 講師…佐藤研氏(立教大学名誉教授)

お知らせ